

# 取り組み

NPO 法人清水サッカー協会は、2001年10月30日に創設以来『子どもたちの為に、次世代の為に』を柱として、スポーツを通じて地域における少年少女の健全育成と一貫指導による競技向上を図ると共に、人々の健康増進と生きがいの創出及び、世代を超えた交流の場づくり、まちづくりに取り組んでいます。

全国少年少女草サッカー大会をはじめとする各大会等行事や各種施策に取り組むことによりSDGsが掲げる「誰一人取り残さない」社会の実現に向けていくことを宣言します。



## SDGs 4 質の高い教育をみんなに

「美しいサッカー」の美しさにとって極めて重要な基盤は「公平・公正さ」である。(サッカー競技規則の理念と精神より) この理念と精神はスポーツが持つ共通事項であり、青少年の心身の健全な発達を促し、特に自己責任、克己心やフェアプレー精神を培うとともに、仲間や指導者との交流を通じて、コミュニケーションを育成し豊かな心と他人に対する思いやりを育みます。大会の実施のみならず、サッカースクールの開催やトレセンの指導等においてサッカー競技規則・実技と共にリスペクト精神を学ぶことにより、人権・男女平等・平和及び非暴力的文化の推進等持続可能な開発への理解の教育をしていきます。



## SDGs 5 ジェンダー平等を実現しよう

「女性には女性らしい感性があるものだ」・「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」といったジェンダーの固定観念があり、生きづらい社会になっています。ジェンダーの固定観念によって個人の行動や選択肢が制限されることなく、一人ひとりが能力を発揮し、尊重される世界をつくることが世界共通の課題です。「男だから～すべき」、「女だから～すべき」という性別役割分担の決めつけを無くす努力をすると共に、男性と女性が協力し合えば、すべての人にとって生きやすい社会となります。

全国少年少女草サッカー大会をはじめ各種の大会等においても男女関係なく全ての人に参加出来る環境を整え実施していきます。



## SDGs 10 人や国の不平等をなくそう

男性と女性、健常者と障害のある人、人種、民族による不平等をなくす。不平等を解消するには、みんなが違っていることを知り、違いがあるのが当然だと理解すること。お互いの違いを認め、相手を大事にする気持ち（リスペクト）が何よりも大切です。

チャレンジド支援事業の推進として位置づけ健常者と様々な障害者の方々が共に楽しめるユニバーサルスポーツとしてのサッカーの定着を目指すとともに中学生を中心にボランティアの育成を実施します。



## SDGs 16 平和と公正をすべての人に

虐待（暴力的な罰を含む）には、身体的・性的・心理的/感情的な暴力が含まれます。練習や試合において、監督やコーチから罵声を浴びている子どもたちを目にすることも少なくありません。このような行為は「子どもの人権問題」であり、この問題に取り組むことは、平和で非暴力な社会を築くために不可欠なことです。子どもに対するあらゆる形態の暴力や心理的な攻撃をなくすため、子どもの声を聴き子ども視点を尊重した環境づくりをしていきます。

全国少年少女草サッカー大会において、マッチ・ウェルフェアオフィサー（競技会会場におけるリスペクト精神等の啓発や暴力・差別等の予防活動・問題が起きた時の対応等にあたる者）を各会場に配置するとともに、SDGsの理念に沿った指導者（監督等）の表彰制度の導入を検討・実施していきます。



## SDGs 17 パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsの目標を達成するためには、個人・団体・企業等多くの人達や組織のサポートなしでは大会を運営することも出来ません。SDGsの普及に力を入れながら連携し大会等の運営を実施していきます